

始良市

じまんげな誌

2-1

始良の三坂と古寺跡めぐり

始良の三坂や古寺跡：
まずは出かけることから始めましょう。



薩摩藩の主要街道として使われており、島津骨久や義弘が陣を構えたと言われています。



物資の往來する主要幹線として薩摩の経済や文化に関与し、西南の役では西郷隆盛率いる薩軍がここを過って熊本へ向かったそうです。



始良の三坂の魅力って？

始良のまちは薩摩半島と大隅半島を結ぶ位置にあり、昔から人や馬が行き来していました。昔の道は当然のことながら舗装されてなくて、雨の降る日などの移動はたいへんだったことでしょう。

始良から鹿児島市内や北薩へ行く時は山を越えないといけません。そこで、登場するのが白銀坂、龍門司坂、掛橋坂という始良の三坂です。三か所とも石を組んで整えたもので、これだけまとまって残っているのはとても珍しいです。それぞれに趣があり、魅力たっぷりです。

まずは白銀坂、鹿児島城下と大口を結ぶ大口筋の一番の難所です。始良市脇元に約2.7kmの石畳が残っていて、急なので歩き通すには結構ハードです。ここでは石の組み方をよく見て欲しいんです。所々ずいぶんとしつかり組んであります。藩主はじめとした偉い方も通ったので工事に気を配ったのでしょう。

自然を感じながら歩くのもいいですが、どんな造りなのか工法まで目を向けると楽しさが広がってきますよ。

整った龍門司坂、庶民が歩いた掛橋坂

龍門司坂は白銀坂と同じく大口筋の一部で、全長1500メートルのうち現在500メートルほどが残っています。道幅も6〜7メートルあり、比較的歩きやすいですが、苔むしているため注意が必要です。

その美しさと状態の良さは日本屈指の石畳の街道と言っても過言ではないでしょう。坂の近くには金山橋というアーチが美しい明治時代の石橋もあり、石組みの技術の進歩を知ることができます。石造りといえば、始良市内の蒲生町にある美しい石塀が続く武家屋敷群も見ごたえがあります。

近年注目を浴びた掛橋坂という坂があります。この坂は蒲生と祁答院を結ぶ地方の街道で、明治時代まで一般の庶民や商人などに広く利用されていました。両側の木々に遮られ苔むした石畳の坂が続いています。道筋には寛政8年(1796)の庚申供養碑や明和9年(1772)の馬頭観音碑があることから、遅くともこの頃までには石畳道が完成していたと考えられます。自然石が屏風のように切り立った所や滝もありますよ。ややジメジメして石の上には苔が生えていたりするので、滑らないよう要注意です。

とにかく行くこと、それが大事

私はラジオ番組でいろんな歴史について語っています。なかでも、ライフワークといってもいいのが古寺跡めぐりです。明治時代以前の建物が今も残る古寺ではなく、失われたお寺の跡地をめぐるものです。



語り手 川田 達也さん

鹿児島は廃仏毀釈で多くの寺が壊された。そうした廃寺跡を川田さんは古地図や文献をもとに丹念に訪ね歩き、墓石に刻まれた先人の足跡を読み解く。その一部を紹介した『鹿児島古寺巡礼』の著者であり、週イチであいらビューエフエムのパーソナリティも務める。



詳しい地図へQRコード↓



白銀坂



龍門司坂



掛橋坂



山中に延びる石畳は当時のままで、歴史を感じることのできる道が2.7Km続きます。



近くの樋ノ迫山から切り出された石を用い、100年余りかけて整えられた精緻な石畳が苔むし、得も言われぬ風情を醸し出しています。



白銀坂・龍門司坂とは少し趣の異なる石畳が山中を貫いています。途中馬頭観音の石碑や庚申供養碑なども見ることができます。



蒲生城跡
標高160mの所にあった山城で、蒲生氏が築城しました。山の形が龍の姿に似ていたことから「竜ヶ城」とも呼ばれていました。現在は城山公園となっていますが、当時の遺構を見ることもできます。



竜ヶ城磨崖一千梵字仏蹟
蒲生城の東北の岩壁に彫られた磨崖梵字群。その数は1000を超えと言われています。詳しいことはわかりませんが、鬼門封じとも考えられています。

始良市
じまんばな誌
2-2
始良の三坂と
古寺跡めぐり



江戸時代には都答院と錦堂を結ぶ地方街道として利用されていて、毎年たくさんの年貢米が輸送されていました。



古寺跡めぐり



米山薬師
「薩摩三薬師」の一つとして古くから信仰されてきました。廃仏毀釈により現在は神社となっていますが、本殿内には今でも薬師如来が安置されています。近くには「ほそん水（疱瘡水）」が湧き、昔から天然痘に効果があると信じられてきました。また、ここからは始良の街並みを一望できます。



総禅寺跡(豊洲島津家墓所)
この地を治めていた豊州島津家の菩提寺で、初代の季久、6代の朝久、さらには島津斉彬などに仕えた15代久寶らの墓塔があります。墓地の入口にある石碑の「思舊開素懐」の文字は勝海舟によるものです。



長年寺跡(加治木島津家墓所)
加治木島津家の墓所として国の史跡に指定されています。明治2年の廃仏毀釈で廃寺となりましたが、現在史跡として残る場所は、当時とほとんど変わらない姿を私達に見せてくれます。

鹿児島には江戸時代に成立した『三国名勝図会』という書物があります。それには江戸時代の鹿児島にあった神社仏閣や名所・旧跡の説明、さらには特産物も書かれています。そして所々に当時の姿を描いた絵図が載せてあります。その絵と文を手がかりにお寺を探すのです。鹿児島は明治の廃仏毀釈で全てのお寺が壊されました。でも、本堂などの建物はなくても、お墓や石塔などは残っていることが多いのです。私は約250か所ほどを巡りましたが、薩摩藩には1066のお寺があったとされており、その数だけ古寺跡があるはずですが、しかし跡すら無くなっている場所も多く、どれだけ残っているか分かりません。

始良市内にも多くの古寺跡があります。たとえば、加治木島津家の歴代の墓所である能仁寺跡・長年寺跡。そして当時の雰囲気の色濃く残す岩屋寺跡・総禅寺跡などです。古寺跡では様々な墓石や供養塔などの石造物に出会えます。いろいろな楽しみ方があるのですが、例えば墓石に刻まれた文字を眺める。とても几帳面な文字、少く見ることが出来ます。そんな些細な発見でもいいので、とにかくまずは行ってみる。そこで、興味が湧いたら文献で調べればよい。

現代のものとは形も趣も異なる石造物たちに囲まれてみると、時を超えている気分になれるかもしれません。



掛橋坂の小川に渡された小さな石橋



米山薬師参道の石段(薬師道)
米山薬師へは山を削って造られた急な石段をのぼってお参りします。当時は「薬師道」と呼ばれ、数百年の間多くの人がこの参道をのぼりました。そのため石段の中央部が削れ、少し窪んでいるのです。米山薬師が篤く信仰されていたことを示す痕跡です。



御屋地様の墓
御屋地様とは義弘の長女千鶴のことです。島津朝久に嫁りましたが、朝久の病没後、元々義弘が居住していた帖佐の居館に住んだことから、「御屋地様」と呼ばれました。寛永13年(1636)に亡くなり、ここ総禅寺に葬られています。



島津都美の供養塔(亀趺碑 きびひ)
島津氏 25代当主島津重豪が母である都美の33回忌に建立した石碑です。通称「亀墓」と呼ばれています。都美は重豪(久方)を生みますが、その日のうちに亡くなります。この石碑には重豪の、自分を生んで亡くなってしまった母への想いが込められているのです。



龍門滝
昔、唐人がこの滝を称して「漢土の龍門の滝を見るのが如し」と言ったことから、龍門滝と呼ぶようになったと伝えられています。

全高：46m
全幅：43m
日本の滝百選



金山橋
金山橋は、網掛川にかかる凝灰岩で造られた美しいアーチ形の石橋で、長さ22.6m、幅4.2m、川からの高さは約10m。



岩剣城
島津義久、義弘、歳久の初陣の合戦が行われた城で、この戦では日本の歴史において初めて鉄砲が実戦投入されたと言われています。